

# 大阪文化の 灯を灯そう!

史遺産を残すことにつながっているのですね。

堀井 懐徳堂が明治2年に閉鎖された後、オランダ人化学者のハラタマ博士(K.W.Gratama:1831~1888)を中心とする舎密局(せいみきょく)という化学研究所ができました。これを発展させれば大学になったのですが、結局はこれも京都に追い出していました。それが佐藤さんの話された第三高等学校で、後の京都大学となります。京都大学の総長は、舎密局が我々のルーツだとおっしゃっています。ハラタマ博士の銅像が大阪府警察本部の一角にあります。私はその前を通るたびに悔しい思いをします。大阪が学問の砦を追い出したんだと。さらに後年、工場等制限法

で再び大学をまちの外へ追い出していました。私は今、そういう歴史を繰り返してはならないという思いを強くしています。私たちに自信と誇りを与えるものは、まさに文化と伝統の連続性に他ならないからです。

## 文化をプロデュースする人材を

萩尾 昨年12月に京阪中之島線の開通を記念して、大阪国際会議場主催でコンサート(加山雄三と大阪センチュリー交響楽団)を開催したところ、2754人収容のメインホールが満席になりました。そこでこれを機にメインホールに名前をつけようということになり、



## 財団法人大阪国際児童文学館

日本唯一の存在に海外も注目  
北田彰 常務理事 談

当館の役割は大きく二つあります。一つは児童文学の総合資料センターとしての役割。毎年国内で発行される児童書や雑誌などを収集しています。現在約70万点の資料を活用・保存し、後世に伝えていきます。もう一つは、子どもと本をつなぐ活動の支援。例えば新刊書を当館専門職員が全て読み込み、お薦めの本を図書館司書や学校教員、読書ボランティアの方に紹介します。こうした役割と活動を担っているのは、全国でここだけ。海外からも注目されています。

